



研修の様子を紹介します

アントレプレナーシップ（起業家精神）を育むキャリア教育推進講座：6 / 9（金）

本講座は、アントレプレナーシップ教育について理解するとともに、県内における取組の現状や課題を把握し、各学校における指導に生かす具体的方法を学ぶことを目的として実施しました。新潟大学の伊藤龍史准教授からアントレプレナーシップの理論と実践について御講義いただき、その後、刈羽村立刈羽中学校の実践発表、アントレの視点で自校のキャリア教育を見直すための協議を行いました。



グループ協議の様子

受講者の声

アントレプレナーシップが、必ずしも会社立ち上げという狭い意味でなく、主体的に課題を見つけ解決を図る姿勢という広義のものとして捉えてよいということがわかりました。

社会、世界というと大きな枠組みになりますが、学校や学級もひとつの社会と捉えると、その中でできるアントレプレナーシップ教育も見えてくると感じました。

チーム学校で進める協働的な教育相談講座：6 / 8（木）

新潟大学の横山仁史助教から「面接相談における児童生徒理解」というテーマで、問題解決のための基本的スキルや、支援につなげる問題理解について、具体例を交えながら、御講義をいただきました。その後、児童生徒との相談を想定したロールプレイを行いました。受講者は自分のロールプレイの様子を撮影した動画を確認し、相談スキルの向上を図りました。

児童生徒に適切な支援を行うためには、SCやSSW、医療機関などとの連携が大切になります。本研修では学校内外にいる多職種の専門家との連携及び協働について研修していきます。



協議の様子



ロールプレイの様子

受講者の声

子どもたちの緊張をほぐし、安心感を与えられるような聴き方で、子どもたちの思いをしっかりと聴くことが大切だということを学んだ。

ロールプレイは難しかったが、実際に自分が面談をしている姿を見て、普段の様子を振り返ることができた。今後の実践に生かしていきたい。

新潟県立教育センターでは、教育課題についての調査・研究を行っています

前号から、当センターが行っている調査・研究テーマについて紹介しています。今回は、「総合的な学習（探究）の時間」、「道德教育」、「カリキュラム・マネジメント」です。

総合的な学習（探究）の時間

「総合的な学習の時間、及び、総合的な探究の時間の効果的な取組」について調査・研究を行っています。

総合的な探究の時間（高等学校）では、質の高い探究が求められるようになってきました。より洗練された質の高い探究には、「高度化した探究」（整合性・効果性・鋭角性・広角性が十分に発揮されている探究活動）や、「自律的な探究」（自己課題・運用・社会参画が現れる探究活動）があります。

今後も県内外を問わず、先進的で汎用性のある取組について調査・研究を行い、紹介していきます。



今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（高等学校編）

より洗練された質の高い探究

高度化した探究
【整合性】探究において目的と解決の方法に矛盾がない
【効果性】探究において適切に資質・能力を活用している
【鋭角性】焦点化し深く掘り下げて探究している
【広角性】幅広い可能性を視野に入れながら探究している

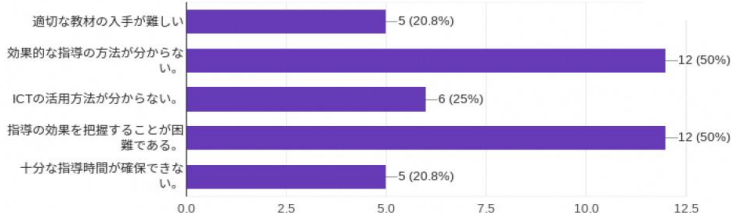
自律的な探究
【自己課題】自分にとって関わりが深い課題になる
【運用】探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる
【社会参画】得られた知見を生かして社会に参画しようとする

令和5年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会資料より

道德教育

質問8 道德科の時間を展開する上で課題は何ですか。

24件の回答



道德科の授業に対して、やりにくさを感じている先生が多い現状から、先月、その原因を探るために、県内の数校を対象にアンケートを実施しました。アンケート結果からは、「効果的な指導法が分からない」「指導の効果を把握することが困難」といった点を課題に挙げる先生が5割を超えました。

そこで、今年度は、「誰もが取り組みたくなる道德授業～その効果的な指導と効果の把握法について～」を研究テーマとし、少しでも道德科の授業の敷居が下がることを目指すこととしました。小学校3校と中学校1校を実践協力をお願いし、各校の取組の内容とその成果を分析し、今年度の教育フォーラムで（動画）発表します。

カリキュラム・マネジメント

全校種で新学習指導要領が実施され、カリキュラム・マネジメントを推進して、教育活動を進めていくことが重要となっています。

当センターでは、以前の教育フォーラム分科会で「『チェックリスト』と『分析結果シート（処方箋）』を活用したカリキュラム・マネジメントの推進について」提案・発表を行いました。すでに学校では、これらを活用して学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを進め、学校運営を行っていることと思います。その中で、各学校の教育課題も新たに見つかってきているのではないのでしょうか。

大きな変更とはいかなくとも、少しずつ調整を図るために、「チェックリスト」と「分析結果シート」を活用して、カリキュラム・マネジメントを充実させ、特色ある学校づくりに努めてください。

なお、「チェックリスト」と「分析結果シート」は、当センターのHP（下記URL）からダウンロードができますので、御活用ください。

<http://www.nipec.nein.ed.jp/project/currimane/index.html>